

## 議題 4

# 県の地方創生関連事業との連携について

## 佐賀県移住支援室との連携について

県では、平成 28 年度に佐賀県移住支援室を設置し、福岡都市圏を移住促進のメインターゲットとして仕事や暮らしに関する相談体制を強化してきたところである。

コロナ禍によるテレワークの急速な普及に伴い、大都市圏から地方への移住に関心が高まっていることなどを踏まえ、引き続き県移住支援室との連携を図り、本市のさらなる定住人口獲得に繋げたい。

### 1. 令和 4 年度の連携事業について

#### ① 地方創生移住支援事業（負担割合：国 1/2、県 1/4、市 1/4）

前年度に続き、東京圏から移住し、テレワークによって移住前の仕事を継続する 2 世帯に対して移住支援金を交付した。また、令和 4 年度から追加された、18 歳未満の子ども 1 人につき 30 万円を加算する「子育て加算」については、3 人に対して交付を行った（下表の下線部分）。

＜交付対象世帯の構成＞

令和 3 年度	令和 4 年度
① 30 代夫婦 + 子（6 歳）	① 30 代夫婦 + <u>子（0 歳）</u>
② 30 代夫婦 + 子（5 歳・1 歳）	② 40 代夫婦 + <u>子（12 歳・9 歳）</u>
③ 30 代夫婦 合計 / 3 世帯 9 人	合計 / 2 世帯 7 人

（別紙 1）「令和 4 年度地方創生移住支援金事業に関するヒアリング結果」参照

#### ② さが暮らしスタート支援事業（負担割合：県 3/4、市 1/4） ※令和 4 年度新規事業

県外在住者が佐賀県に移住し、県が設定する「地域の担い手要件」を満たす場合に、その者の世帯の状況に応じて支援金を支給するもの。今年度、2 世帯 2 人に対して交付を行った。

（別紙 2）「令和 4 年度さが暮らしスタート支援事業に関するヒアリング結果」参照

#### ③ 福岡都市部向け広報事業 ※令和 4 年度新規事業

福岡都市部から近郊への移動を検討している子育て世帯をコアターゲットに設定し、福岡市近郊（糸島市・福津市）と同等の位置関係にある鳥栖・基山エリアを訴求するもの

- 11/1～11/14 の期間、地下鉄博多駅のホームドアに鳥栖・基山を訴求した広告を掲載
- 鳥栖・基山から福岡へ通勤する子育て世帯へのインタビューを県移住ポータルサイト「サガスマイル」に掲載



- ④ **令和4年5月28日（土）「九州・山口・沖縄 暮らしシゴト 2022」（@東京交通会館）**  
 NPO 法人ふるさと回帰支援センターが主催し、九州・山口・沖縄9県と51の団体が参加。イベント全体の来場者数は、274組343人。そのうち、鳥栖市のブースには8組12人が来場された。
- ⑤ **令和4年11月19日（土）「佐賀暮らしスイッチ合同移住相談会」（@ソラリアプラザ1F）**  
 佐賀県移住支援室が主催し、県内18市町が参加。イベント全体の来場者数は、42組64人（うち、鳥栖市ブース来場者7組11人）。人通りの多いオープンな場所で開催されたため、飛び込みでの相談などもあり、視覚的にも佐賀県への移住を印象付ける機会になっていた。
- ⑥ **【予定】令和5年2月4日（土）「佐賀の暮らし体感ツアー-in 鳥栖・基山」**  
 佐賀県移住支援室が主催する博多駅発着の日帰りバスツアー。駅スタ見学や先輩移住者との交流会などを通じて、福岡都市圏から仕事を変えずに理想の暮らしができる利点を訴求する。佐賀県への移住検討者20人程度が参加予定。
- ⑦ **【予定】令和5年2月12日（日）「九州・山口合同移住相談会」（@難波御堂筋ホール）**  
 佐賀県移住支援室が事務局となり開催。九州・山口・沖縄9県から56団体が参加予定。
- ⑧ **【予定】令和5年2月18日（土）「佐賀の仕事と暮らしまるごと相談会」（@東京交通会館）**  
 佐賀県産業人材課が主催。U I Jターンによる移住推進と企業の人材確保を目的に開催する相談会。県内10市町と県内企業約30社程度が参加予定。

## 2. 令和5年度の連携事業について

- ① **地方創生移住支援事業（みやき町、玄海町以外の18市町で実施）**  
 令和5年度から、18歳未満の子どもの数に応じて加算する金額を現行の30万円から「最大100万円（国費50万円）」へ引き上げることとされたため、次のとおり加算して実施したい。
- ・単身 600千円 × 3件 = 1,800千円
  - ・世帯 1,000千円 × 2件 = 2,000千円
- 18歳未満の子どもを帯同する場合は、子ども1人につき1,000千円を加算  
 1,000千円 × 6人 = 6,000千円（※令和5年度拡充部分）
- ② **さが暮らしスタート支援事業（吉野ヶ里、上峰、みやき、玄海、江北以外の15市町で実施）**  
 支援金額は、単身、世帯ともに地方創生移住支援事業と同額で、子育て加算はなし。  
 令和4年度の申請状況が想定を下回っていることから、県において下記2点の見直しを検討中。
- ・年齢制限の緩和（49歳以下→59歳以下）
  - ・空き家バンク活用要件の緩和（市町から空き家の取得・改修への助成を受けることを不要とする）

## (別紙 1) 令和 4 年度地方創生移住支援金事業に関するヒアリング結果

No.	前住所	現住所	転入時の世帯主年齢	職業 / 業種	世帯人数・構成	移住後の住宅	転入日	申請者へのヒアリング ① 移住のきっかけは？ ② 移住に関する不安はなかったか？ ③ 鳥栖市を選んだ理由（選択式） ④ 鳥栖市に住んでからの感想（良い点） ⑤ " (悪い点、困った点) ⑥ 鳥栖市以外に移住候補地はあったか？
1	東京都世田谷区	山浦町	30代	会社員 テレワーク / 食品EC	3人 夫婦と子 (0歳)	賃貸住宅	R4.2.1	<p>① 夫は熊本出身、妻は伊万里市出身で、互いの実家にアクセスしやすい交通の利便性があり、仕事で東京に行く場合にも空港を利用しやすいため鳥栖市に決めた。また、福岡県の市町も検討したが、佐賀県には移住支援金の制度があったため、佐賀県を中心に検討していた。</p> <p>② 鳥栖市で暮らしたことはないので不安は少しあったが、お互いの実家が近くなり、両親を頼ることができる点は、子育てする上で非常に心強い。子供が祖父母と接する機会を多く作ることができる点が良い。</p> <p>③ 通勤・通学が便利、住環境が良い、子育て環境が良い、地縁や血縁、その他（九州の友人が来てくれやすい）</p> <p>④ アクセスが良くお互いの実家に行きやすい。両親や友人が訪れやすい。スーパーや買い物をする場所が十分ある。</p> <p>⑤ ゴミの出し方が関東に比べて厳しいので大変。指定のごみ袋やごみの出す日が細かく決まっている。</p> <p>⑥ 佐賀市</p>
2	横浜市青葉区	弥生が丘	40代	会社員 テレワーク / 情報処理	4人 夫婦と子 (12歳・9歳)	戸建て購入	R4.4.14	<p>① 夫は基山町、妻は鳥根県出身。けやき台に高齢の父が一人暮らしをしているため、以前から父の近くで生活したいと考えていた。こうした中、コロナ禍によって令和4年度から勤務先が完全リモートワークに移行し、居住地の制限がなくなったため、移住を決断した。また、小6と小3年の子どもがおり、神奈川では受験競争が激しく、周りの友達の影響もあって週3～4回塾に行かせていたが、本来はのびのび育てたいという教育方針であったことも移住のきっかけ。転勤ではなく、自己都合での移住のため、会社による引越し費用補助の対象外とされた。そのため、移住支援金は引越し費用に関する支援として大変助かった。</p> <p>② 夫の実家が基山で街の雰囲気は分かっていたので不安はなかった。同じ佐賀県でも初めて訪れるような市町（例えば伊万里）では不安なので移住の候補地にはならなかった。</p> <p>③ 子育て環境が良い、地縁や血縁</p> <p>④ いいことしかない。住環境も良く、のびのびと生活できることが魅力的。近所の人声も声をかけてくれるので情報交換などもできている。交通の利便性も良く、家族で関東の友人を訪ねた時も新鳥栖駅から新幹線を利用した。普段の買物は、鳥栖市内や筑紫野イオンをよく利用している。横浜市では、小さな子供向けの公園が多く、小学生が遊べるような大きな公園があまりなかったが、鳥栖市には小学生も遊べる公園が近くにあり、メンテナンスも行き届いていて非常にきれい。</p> <p>⑤ 特になし。強いて言うと、指定のごみ袋などゴミの出し方が厳しくなった。例えば、割れたお茶碗などの小さな不燃物を出すだけでも指定のごみ袋に入れないといけないのでなんとなくもったいない。以前は指定袋はなく、マンションだったこともあり、ゴミを出したいときに出すことができていた。</p> <p>⑥ 基山町</p>

## (別紙2) 令和4年度さが暮らしスタート支援事業に関するヒアリング結果

No.	前住所	現住所	転入時の世帯主年齢	職業／業種	世帯人数・構成	移住後の住宅	転入日	申請者へのヒアリング ① 移住のきっかけは？ ② 移住に関する不安はなかったか？ ③ 鳥栖市を選んだ理由（選択式） ④ 鳥栖市に住んでからの感想（良い点） ⑤ " (悪い点、困った点) ⑥ 鳥栖市以外に移住候補地はあったか？
1	神戸市	宿町	30代	会社員 さがリターンナビで就業／製造	1人 单身	社員寮	R4.9.16	<p>① サガン鳥栖の試合観戦がきっかけ。2014年、ヤンマーに勤務していた関係でセレッソ大阪のアウェイゲームを鳥栖市で観戦した。その時の試合やサポーターに感銘を受け、自身もサガン鳥栖ファンになった。以降、年間パスを購入してサガン鳥栖を応援している。</p> <p>② 全くなかった。試合観戦で何度も訪れていたため鳥栖市の雰囲気は分かっていた。</p> <p>③ 交通利便性、サガン鳥栖が好き</p> <p>④ 飲食店やスーパーが多く生活面での不自由がなくて便利。公共交通が充実しているので車がなくても生活ができる。</p> <p>⑤ 夜勤があるので、24時間営業の飲食店などがあると助かる。</p> <p>⑥ 佐賀市、吉野ヶ里町、神崎市、久留米市、福岡市</p>
2	大分県杵築市	儀徳町	40代	会社員 さがリターンナビで就業／運送	2人 夫婦	賃貸住宅	R4.10.4	<p>① 夫が佐賀市出身で、以前から佐賀県に戻りたいと考えていた。移住の一番のきっかけは転職して鳥栖市の企業に勤めることになったためである。また、妻が病気がちで移住前の生活環境が合わず、環境を変えたいという思いもあった。</p> <p>② 夫婦共に鳥栖市に住んだことはなかったが、夫の職業がトラック運転手のため、鳥栖市の利便性については良く分かっていた</p> <p>③ 仕事・通学の都合上、地縁や血縁</p> <p>④ 病院やお店が近くにあるので便利。まちなかで大抵のことが解決する。必要な時は久留米市にも足を運ぶことができる。以前住んでいた杵築市ではお店や病院が近くになかったため、別府市まで移動していた。</p> <p>⑤ 今のところ困っていることはない。</p> <p>⑥ 特になし</p>